

西要寺だより

第119号 令和7年9月9日



「西要寺だより」をお届けいたします。

今号では、「永代経法要」「盂蘭盆会法要」のご報告をお届けします。

●永代経法要のご報告

5月23日（金）と24日（土）の両日、永代経法要をお勤めいたしました。両日とも午後2時より『仏説阿弥陀経』のお勤めを門信徒の皆様と一緒にいき、その後、高槻・行信教校講師、滋賀県東近江市・浄光寺住職の藤澤信照先生をお迎えし、ご法話をいただきました。



藤澤先生のご講話では、『王舎城の悲劇』にふれながら、『仏説観無量寿経』（『観経（かんぎょう）』）の教えについて、わかりやすくお話しいただきました。阿弥陀さまの救いの目当ては、まさに私たちのような凡夫を対象としているということを聴聞させていただきました。

〈お経〉と聞くと、難解なものと思われるかもしれませんが、『観経』の内容は物語の形式をとっています。

『妙法蓮華経』（『法華経（ほけきょう）』）というお経をご存じでしょうか。お釈迦さまが『法華経』を説かれていた同じ時期に、王舎城では提婆達多（ダイバダッタ）にそそのかされた阿闍世（アジャセ）が両親に対して逆害を犯すという出来事が起こっていました。この悲劇（王舎城の悲劇）を受け、嘆き悲しむ王妃・韋提希（イダイケ）の心に寄り添われたお釈迦さまは、一時『法華経』の説法を中断し、牢獄にいる韋提希のもとに現れて極楽浄土の教え（『観経』）を説かれたのです。こうしたことから、『観経』が、まさに苦悩の中にある凡夫のために説かれたお経であることがわかります。阿弥陀さまのお慈悲をあらためて有り難く感じます。



●苦悩のなかにいる凡夫ということ

韋提希（イダイケ）は、実の息子によって愛する夫が牢獄に閉じ込められ、韋提希自身も幽閉されるという、耐えがたい苦悩の中にありました。王妃としての地位も、母としての愛情も、すべてが引き裂かれたのです。彼女は絶望の中で、「こんな悪行をなす人々のいる世界にいたくありません。お釈迦さま、悩み苦しみのない世界を説き示してください」と訴えました。韋提希の叫びには、「自分の思い通りにならない世界はもう嫌だ」「この苦しみから逃げたい」「私は悪くないのに、なぜこんな目に」という、怒りや悲しみ、自分を正当化したいという思いがにじんでいます。



《西要寺の庭に咲いた白い蓮》

これは、実は私たち自身の姿ではないでしょうか。

うまくいかない現実、人間関係の苦しみ、予期せぬ病や別れに直面したとき、私たちはつい「なぜ私が」と思い、周囲や状況を責めたくくなります。そして、「こんな世界、もう嫌だ」と心の中で叫ぶこともあります。

『観経』は、まさにそうした私たちのような凡夫のために説かれたお経です。仏さまは、苦しみの中で歪んだ思いに囚われている韋提希に、極楽浄土という清らかな世界の存在を示されました。その浄土の世界は、自分の思い通りになる世界ではなく、阿弥陀さまの慈悲に満ちた世界です。

お釈迦さまは「阿弥陀さまは、誰もが救われるようにと願っている」と説かれ、最後には「阿弥陀さまの名前を心にたもち、念仏を称えなさい」と伝えます。この話が後に『観無量寿経』としてまとめられ、人はどんなに罪深くて、念仏によって阿弥陀さまに救われるという大切な教えが広まったのです。

なお、9月22日の定例法座、10月19日20日の報恩講法要においても『観無量寿経』のお話をさせていただく予定です。

●近年の葬儀・法要に思うこと ～盂蘭盆会法要の報告～

8月13日・14日・15日の三日間、盂蘭盆会法要を勤めさせていただきました。ご参詣の皆様と共に『仏説阿弥陀経』を拝読した後、住職が近年の葬儀・法要に思うことなどの話をしました。以下、その内容をお伝えします。

近年は葬儀の簡略化が進み、「一日葬」なども増えています。しかし、お通

夜を営むことで、親戚や友人から故人の多面的な姿を聞き、豊かな故人像を築くことができます。多くの人の語りを通して喪失の悲しみも少しずつ和らいでいきます。



そうして故人像が広がると、繰り返し耳にしてきたお経も新鮮に響きます。声を合わせて読経することで「自分はひとりではない」という安心感に包まれ、呼吸も整います。呼吸は武道や仏道に共通する基本であり、生を支える営みです。さらに御齋（おとき）で同じ食事をいただくことは「共に生きる」共同体の象徴であり、死を意識する場でむしろ生を実感する行為となります。時にお酒も供され、泣き笑いしながら心を交わせるのも人間らしい姿といえるでしょう。

儀礼は準備に手間がかかり、賑やかで慌ただしい時間でもあります。しかし、その営みこそが「生きている」という実感を与えてくれます。死の悲しみや不安に引きずられないように、生きる力を与えるのが伝統的な儀礼なのです。

葬儀だけでなく、法要についても同じことが言えます。お盆の法要を通して念仏の声に包まれるとき、私たちは「ひとりではない」という安心を実感できます。どうぞこのご縁を大切に、今後の法座や報恩講法要にもぜひお参りいただきたいと願います。

●最後に・・・

お墓の塀を新しくいたしました（右 写真）。お盆の法要にお参りくださった門徒の皆さまにはご覧いただけたかと存じますが、あらためてここにご報告申し上げます。ご参拝の折に、ぜひご覧ください。



『観無量寿経』のお話については、10月の報恩講法要においてもお話をしていただく予定をしております。永代経法要にお参りに来られた門徒さんにおかれましては、また報恩講法要では違う先生のお話を聞いていただくことによって、さらに深くお経の内容を味わうことができると思います。私もどのようなお話が聞けるのか楽しみです。

また、去年の報恩講法要では歴史にまつわる講話が大変好評でした。そのため、今年11月22日(日)午後2時より歴史講座を開催する予定です。また、

これからも、西要寺の法座や法要へのご参詣を心よりお待ち申し上げております。まだまだ暑い日々が続いています。皆様もお身体に気をつけてお過ごしください。

◎西要寺行事予定◎

【定例法座】

9月22日（月）午後2時より

講師：西村 一樹師

（高槻・行信教校講師、尼崎市椎堂・吉祥寺住職）

場所：西要寺会館

【報恩講法要】

10月19日（日）・20日（月） 両日とも午後2時より

講師：佐々木 義英師

（浄土真宗本願寺派総合研究所所長、滋賀県大津市・福田寺住職）

場所：西要寺本堂

ホームページ（saiyouji.com）



または ^{さいようじ}西要寺 と検索ください。

浄土真宗本願寺派

^{さい}西 ^{よう}要 ^じ寺

661-0024 尼崎市三反田町1-7-27

TEL 06-6429-8241